

C.L. ドジスン (ルイス・キャロル) の手紙¹⁾(3)

平 倫 子

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1869年2月20日

拜 啓 マクミラン様

廉価版の『アリス』を受け取ったところですが、特に注意していただきたい点について申し上げます。第一に、兎の家にいるアリス(部屋いっぱい描かれているところ)のキズが鉛板からまだ取り除かれておりません——これは鼻のわきの目障りな突起物ですから、木版と電気版の両方から取り除く必要があります。私は前から気になっていたのです、何度もそのことをお願いしてきました。今度、クレイに会われる時³⁾このことを思い出していただけたら幸いです。これはライブチヒにある鉛板にも言えることです。

この本については、まだ何と言ってよいかわかりません。多くの点で気に入っておりますが、私が決定的なことを言う前に友人たちにも相談してみたいと思います。私の今の印象は、6シリングのものとはほとんど区別がつかない程だということです。人々はおそらく、よりよい紙質と製本のものが手に入りさえすれば、3シリング6ペンスか4シリングでも法外な値段だと思うに違いありません。私は今でも、まったく別の本にするという考えにこだわっています。つまり120ページぐらいの本にするため、絵は12枚だけにして(それも色のついた紙に見事に印刷して)本文は小さな活字で詰めて組みなおす、という考えです。このやりかたで出版した場合の費用の見積もりを出してみてくださいませんか? このほうが、あなたのおっしゃるやり方よりも安く出来るのではないかと思います。6シリングの本の購入者は、廉価版の購入者よりもお金で買う以上のものを手に入れたと感じることが出来る、と私は考えたいのです。

敬 具

C.L. ドジスン

『詩集』⁴⁾の新しい書評を送って下さり、ありがとうございました。
——『アリス』によせられた賛辞を読んだあとでは、たいへん有益な読
み物です。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1869年5月4日

拝 啓 マクミラン様

とうとうフランス語版『アリス』の決定校を手にしました。タイトル
ページ以外は、このままそっくり印刷所にまわしてよいでしょう。私は
クレイに書く前にあなたに書いています。部数その他を彼と相談なさる
と思いましたので。私自身は2,000部ぐらいを考えていますが、あなた
にはもっと良いお考えがあると思います。

タイトルページは、これではまだ良いとは思えませんので、ご検討い
ただくために三つの案をお送りします。1. 見た感じが上にあがりすぎ
だと思えます。さらにタイトルの“AU”は小さすぎます。それで2.
のように改めてみました。3. 彼等はスペースの間隔を変えてしまいま
す。私は見るたびに、どちらが正しいのかわからなくなってしまいま
す。

用紙はもちろん、英語版と同じものですね。

「コンテンポラリー」誌に『アリス』についての好意的な書評がのっ
ています。それを一部手に入れました。また、4月8日号の「ネイショ
ン」誌にも書評が出ていました。書評氏は、子ども達があの本に関心
を持つかどうか疑わしいと言っていましたが、4月15日号の同誌には、
投書が寄せられており、投書氏(頭文字のサインのみ)の子ども達や他
の子ども達がどれだけあの本が好きか、詳細に書かれていました。そ
こで一つお願いがあります。同誌の編集者との個人的なやりとりなどに私
が掛かり合うことがないようにして、投書氏の名前と住所を知らせて
いただけないでしょうか。

ドイツ語版『アリス』の広告をまだ見ていないのですが—— 広告
はしたのでしょうか? 貴社の「マガジン」誌のマクミラン社刊ブックリ
ストに、ドイツ語版『アリス』も『ファンタズマゴリア』も載っていま
せんでしたが—— おそらく後者は売り上げも絶望的とお考えでしょう

が——ドイツ語版のほうは、知られさえすればイギリスでもかなり売れるのではないかと思うのです。

クレイク氏⁵³によるしく。私は目下写真を始めているので、彼が言っていたノエル・ペイトン卿の水彩画の写真を撮る許可がいただけるなら、それらを送るのにちょうどよい時だとお伝えください。 敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1869年5月8日

拜 啓 クレイク様

お便りありがとうございました。一言申し上げておきます。私の先の要求をあなたが、もしまだしておられないなら、ペイトン卿に彼の水彩画の写真を撮る許可については何もおっしゃらないように、また子ども達の写真についても同様にお願いします。お願いして拒まれるのは、気の滅入るものですから——いつか彼に会えるでしょうし、子ども達の写真を撮る許可も得られるかもしれませんから。

ついでに申し上げておきますが、『アリス』をアメリカで売ることについて思いついたことをお伝えします。私たちは、アプトン商会が彼らの利益のために注文をするだろう、という考えはあきらめた方がよいと思います。しかし、彼あるいは他の書店と取り決めをすることには何もむずかしい問題はないと考えています——売れた分の歩合を取って残りを送り返せばいいのですから、彼等には何もリスクはない筈です。もしそういう取り決めが可能になったとしても、発送された本はここで売ると同じようにすべきです（さもなければ、二種類の間でいかなるごたごたも起こらないように、はっきりと二流品にするか安くすべきです——あるいは、安いほうを遠くへ送らせて、ここでは良いほうのみを売るというふうに）——“同じにする”ということが最良の案だと私は思います。このことについて、あなたやあなたのお仲間の考えをお聞かせ下さい。 敬 具

C.L. ドジスン

親展

チェスナッツ邸, ギルフォード

1869年9月1日

拝 啓 マクミラン様

あなたの名刺を持ってエヴァンズ氏のところへ行って来ましたが、その訪問の効果はまだ何もありません。その訪問の目的をあなたにお話ししようとおもいます。私がたまたま耳にしたところによると、J. クロウフォード・ウイルソン氏なる人物が「ジェントルマンズマガジン」誌に投稿して掲載されたものに彼は自分を“不思議の国のアリスの作者”と名乗っているというのです。ブラッドベリー アンド エヴァンズ商会からおくられた棒組みグラ刷りには、‘ギャティ夫人に注意’と書きそえられていた、ということも耳にしました。私は編集者に、このウイルソンなる人物について問い合わせ、同時にこれほど恥ずべき出来事と知っていたら拒否するするのが当然だということ、そしてすくなくとも彼の雑誌がそれを載せたことに対する遺憾の意を表わすべきではないか、と書きました。私は7月10日にその手紙を出し、8月1日付でもう一度(エヴァンズ氏に、転送してほしい旨のメモをそえて)出しました。しかし何も音さはありません。8月16日にはエヴァンズ氏に、あの手紙が編集者に届いたかどうかをたずねる手紙を出したのですが、やはり無しのつぶてです。

どうかあなたからエヴァンズ氏に、手紙が編集者に届いたかどうか、それについて編集者はどう考えているのか、あるいは自分に不利なので沈黙策をとってごまかせば良いと考えているのか、を問い合わせてみて下さいませんか。内密の手紙を書いて私に出来ることはすべていたしました。彼が返事を拒みつつけているという事実だけつけ加えて、三通の手紙をそっくり公表すること以外なすべきことは何もないと思います。

謹 啓

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1870年4月15日

拝 啓 マクミラン様

私の本(『アリス』の続編)のタイトルページはまだ納得できる仕上

がりとは言えません——印刷業者は私の意向どうりやっていないのです。大文字のところはその行の上の線がもっと下にくるほうがいいと思います。大体いまの倍ほどです。直してお送りするものでは、A と F が私の意向よりやや下にずれていますが、他は大体良いと思います。

第二に、AND という語は二行のちょうど真ん中になるようにして下さい。(彼らがしたように) 上の行に寄り過ぎてはいけません。

第三に、タイトルの三行はもっと間隔を詰めるべきです。でもページの上端に近づけ過ぎないように。

第四に、コンマやピリオドは、やや低めの位置にして下さい。

以上の欠陥部分について私が直したものを同封いたします。もとのままも入れておきますので二つの違いがお解りいただけると思います。

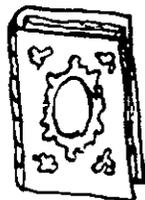
あなたが言っておられる表紙絵についてですが、あれはやめることにした事情をお伝えせず、失礼しました。テニエル氏はアリスが鏡を通り抜けるところの 11 ページに入る挿絵を描きました。同じものを二枚の違う絵として使うわけにはいかないでしょう。版權の事についてもう少し教えていただきたかったと思います。(前にも申しましたが) 実際にそれを売ることなどは少しも考えておりませんが、私の好奇心が知りたがっています。

私はイタリアの友人 (T. ピエトロコラ ロゼッティ氏) に、出版社の心あたりがあるかどうかたずねてみましょう。ローマに貴社が取り引きできるような大きな出版社はありませんか？

敬 具

C.L. ドジスン

追伸 だいぶお騒がせしましたが、(読者から) 写真を請求する、というアイデアは結局やめることにしました。



『鏡の国』の贈呈本（アリス・リデル嬢に贈るもの）を、表紙に卵型の鏡をはめこんで製本していただきたいと思います。そういうことが実際にできるかどうか製本師と相談していただけませんか？ 私がここに描いたように、本とのつり合いも考えてあまり大きくない方が良いでしょうと思います。

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1870年4月21日

拝 啓 マクミラン様

（『鏡の国』の）タイトルページの三十枚の束を受け取りました。残念ながらそれらは無駄でした。第一に、彼らは私たちが以前ボツにした配列をまた繰返しています。つまり、一行目に THROUGH を持ってきて、次の行に THE LOOKING-GLASS としています。第二に、彼らはタイトルの後半を省いています。同封のものは、先日お寄りした時お話ししたものを、かなりのところまで手直した見本です。うまくゆきそうとお考えでしたら、どうか試してみてください。

一種類だけのものを二十枚は私には多すぎます。

あなたが私にあの⁶²本の作者を明かしたことを知らされていない、と言っているハート夫人は気に入りません。いつか彼女かスメドレー嬢がその事実を私に告げるでしょうし、そうすれば私が前から知っていたことが彼女たちも解るでしょう。いっそあなたから話してしまってもいいですね？ それとも私からにしましょうか？

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード
1870年5月1日

拝・啓 マクミラン様

フリート街十三番地にあるクラーク商会在、一部1ペニーの「ハッピー アワーズ」という名の週間誌を発行していると聞きました。それが『不思議の国のアリス』からの抜粋を載せているのだそうです。友人は本そっくりそのままだと言っています。この件について調べて下さいませんか。そのような出版物が私の本の売れ行きに響くことはないとし

でも、著作権法に違反しているものをそのままにしておくのは良くありませんから。敬 具

C.L. ドジスン

追伸 『アリス』続編の平版(シート)の一枚目が印刷にまわせる段階になったら、それを電気版印刷にするというのは如何でしょう。そうすれば、いつときに8,000部も、しかも5,000シリング安く刷ることが出来ます。このやり方は、二度別々に正確に印刷するやり方よりもずっと時間の節約にもなるはずです。一枚目のシートは多分、今月中に印刷にまわせると思いますが、最後のシートは恐らく八月までは間に合わないかもしれません。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1870年8月8日

拝 啓 マクミラン様

私は末弟のことで気が滅入るばかりです。彼が目下‘無職’であるということは、彼のために良くありません。そこで何であれ、たとえ給料が安くとも彼を仕事に就かせたいと思っています。(ヘンリー・キングズリーが言ってくれたように)彼が仕事をする第一歩としてあなたの出版社が彼を雇ってくださればたいへん有難く思います。仕事の内容は彼に合っていると思いますし、将来(ビジネスマンとしての彼の能力が認められたとき)この経験が彼の仕事のよい方向づけになるだろうと思います。どうか彼を(臨時雇いでも)事務員か何かで試してみてくださいませんか? あなたの、あるいはクレイク氏の部屋に彼の机を一つ置いて(カウンターの後ろがいいとは彼も思わないでしょうから)会計の仕事とか、書類の作製とか何でも奉仕の仕事をさせてみてください。もちろん彼が仕事をのみ込み、給料を支払うに値するようになるまでは、ほんの名目だけの支払いでいいのです。

(しばらく時間はかかるにせよ)彼は数学的な能力は十分あると思いますので、会計係りとして役立つことがあなたにもお解りいただけると信じます。

彼はアモリー氏に会いに行ったようですが、それ以上は何も聞いていません。アモリー氏が見込みありと認めたのかもしれない、と考えたい

ところですが、たとえ今後他のチャンスが何かあるとしても、それだけに
いっそう二、三年の訓練期間をあえてあなたにお願いする次第です。
どうかお考え下さいますように。 敬 具

C.L. ドジスン

追伸 彼にはこの手紙のことを話しておりませんので、もし彼に何か
仕事を提供して下さるのでしたら、私のことは何もおっしゃらずに、
そのことを直接あなたから彼に知らせていただけると大変ありがた
く思います。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871年2月3日

拝 啓 マクミラン様

フランス語版およびドイツ語版『アリス』が、しばしば語学の教科書
として用いられていること、またフランス語の訳者が翻訳にあたり、
『アリス』には慣用語が多いので訳しにくかった、と言っていることを
考え合わせ、私にあるアイデアが浮かびました。——この本から抜
粋して精選集（小型で絵も入れずに安くして）を作ってみてはどうか、
と思うのです。フランス語の本文も英語と平行して並べます。そうすれ
ば、フランス語の会話を目的とする人のために、英語の慣用語も思い出
しながら覚えるよい助けになる筈です。ドイツ語の場合も同様に出来る
と思います。詩や地口を省いて、他の言語に置き換えられる部分のみを
選ぶつもりです。私の考えでは、値段は1シリングがいいと思います。
その範囲で出来るだけ綺麗で魅力的な仕上がり（『アリス』と同じ赤い
表紙）にするつもりです。小さすぎず、いかにも教科書ふうというので
もなく、そして小口は金にすると良いと思います。

この私のアイデアをどうかお考え下さいますように。お返事待つて
います。賛成していただけるのでしたら、英語版とフランス語版の『ア
リス』のシートを送って下さい。M. ビュエと私は試しに抜粋部分を選
んでみますので。 敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1871年2月27日

拝啓 マクミラン様

『鏡の国』のアメリカ版について、あなたがおっしゃった取り決めに
変更を申し出たいと思います。それは、一千部につき10ポンドの固定
額を私に支払う方法よりも双方にとってより満足のゆくものになると思
います。

結果的には『アリス』の収益とも関連しますから、私たち二人にとっ
てはほぼ同じことになるかもしれませんが、あなたは総収入の10パー
セントではなく、純益の25パーセントを受け取ることにするのです。
今あの取り決めに変更するというのもどうかと思いますが、もし私たち
が他の計画に変えるとなると、良質の紙を主張する自由もなくなると考
えるべきです。というもあらゆる余分の支出は、あなたと私の利益分
からの持ち出しということになりますから。

アメリカの本については、利益の幅はごく少なくおさえて売らざらう
と思いますので、総収入の10パーセントというのは純益すべてを帳消
しにしてしまう筈です。ですから私はいつも損をします。そんな訳でア
メリカ版をイギリスでの場合と同じ扱いにはしないよう、あえてお願い
すると同時にあなたは、総収入の25パーセントを受け取るよう提案し
ます。

もし、総収入が一千部で13ポンドに達するなら、二つのプランは同
じ結果になります——しかしもっと増えるなら、または減るなら、私
の計画はあなたのおっしゃる10ポンドの固定制より利益を公正に配分
できることになると思います。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1871年3月8日

拝啓 マクミラン様

先の問題をもう一度考えてみました。おっしゃるようにとても複雑で
計算がむずかしいとのご意見に同感です。今は何も決めないほうがいい
でしょう。何千部かが売れたとき純益がいくらか(もしあれば)はつき

りますし、そうすれば私に支払われる一千部につき 10 ポンドというのが適正かどうかははっきりしますから。私はもっと多くなるのを期待しますが、たとえそうだとしてもこれまでの取り決めの不足分のことで争ったりはしたくありません。

送って下さった本（ありがとうございます）は、どこから見てもアメリカ版の見本としてぴったりの出来だと思えます。アメリカとイギリスの版がとても似ているので、本当の批評家の目だけが違いを識別出来るだろう、というあなたのご指摘に至極同感です。しかしそのことは、出来るだけ見事に完璧に仕上げようと意図したデラックス版が、実は廉価版とはっきり区別がつかないということでもあり、イギリスの技術を何も認めていないことになります。さらに、廉価版をイギリスの市場に戻すという危険にさらされることも考えられます。それを阻止することは私たちには出来ません。何にせよリスクを伴うのでしたら、アメリカ版など無いほうがましです。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871 年 3 月 31 日

拝 啓 マクミラン様

もしも私がまだお願いしていなかったら、どうぞフランス語とドイツ語の『アリス』を“H.S. トンプスン牧師気付け、イングリッシュチャーチ、セント ペテルブルグ、ティミリアーセフ嬢”宛に送って下さいませんか。彼女は『アリス』をロシア語に翻訳してくれています。

印刷屋に印刷を始めさせても無駄です——挿絵はまだ製作なかばですから。月日は過ぎてゆきますが、テニエル氏からは何も連絡がありません。このままだと、その本はクリスマスには間に合わないのではないかと思います。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871 年 4 月 5 日

拝 啓 クレイク様

(あなたからのお手紙を拝見したので、マクミラン氏宛ではなくあなたに書きます。)“アメリカ”版の本は結局いい物だと分かって驚いたことを認めます。腹立ちまぎれに書いているとお思にならないように。でも私はその問題は事前に私に報告して欲しかったと切に思います。あの考えは(本にかかる経費とリスクのすべてを私が引き受けると考えても)最良の道だった筈です。

しかしもう済んだことですし、たとえ“出版社の10パーセント”を、今度の場合私が一部支払うとしても、そのことでとやかく言うつもりはありません。しかし将来はこのような売り出しや定価の4シリング2ペンスより安く売ることに、私ははっきり異議をとえなければなりません。

作者として私がおもった主張する余地がある、あるいはそうする正当な権利を持っている、とあなたがおもえばどうかその旨お教え下さい。

アメリカ版を、もっと安い値段で提供しなければ、彼らはそれを買わないだろう、と多分あなたはおっしゃるでしょう。しかし、私はそんなにしてまでも彼らに買って欲しいと切望しているわけではないのです。

商業主義の見地に立って、安い紙を使った新しい本を彼らに送ろうとしているのですから、良質の紙のものを廉価本の値段で提供するのは賢明ではないと思います。

もうアメリカでもその他のどこでも、定価の4シリング2ペンス以下で売ることがないようにあなたが責任を持って請け合う、というお返事を待っています。私はこれを不満にかられて激しい調子で書いているわけではありません。あしからず。

敬 具

C.L. ドジスン

今年『アリス』が何部売れたか教えて頂きたいのです。先日は去年の7月以降の発行部数を知らせて下さいましたが、私が知りたかったのはそれではありません。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871年4月13日

拝 啓 マクミラン様

私は、理由もなく不満を申し立てたことにお詫びしなければなりません。(具体的には忘れましたが) アメリカで売り出しても良いと私が言ったのは間違いありません——それで売り出しが始まったのでした。それでもなお、将来のために全く別の取り決めをしておきたいと思っています。すなわち、

(1) 本の質に関して。同じ本を異なった値段で売ることには断固反対します。安い紙に印刷し、安い製本で作った本が良い仕上がりに出来たとして、それをあなたが決める安い値段でアメリカで売ることには、反対はいたしません。しかし前にも申し上げたとおり、正真正銘のものを安く売ることには、今後は同意いたしかねます。

(2) 利益の配分について。「鏡の国」に関しては、支出に比べて利益が多いので、いままでの取り決めでいいと思います。あなたの受け取り分は4分の1です(ね?)。今までは、それが私たち双方にとって公正なものと思ひ黙認してきました。しかし利益が少なすぎて、総収入が純益の大部分を占める(あるいは全体の合計を越える)ような場合、そのやり方は理に合わないものになります。そこで私は、アメリカでの売り出し、ここでは「鏡の国」のアメリカでの売り出し(まだずっと先のことですが!)について、出来ればあなたが純益の4分の1を受け取るよう提案します。この考えに同意していただけるなら、これ以上何も申し上げることはありません。直ちに安い紙に印刷すればよいのですから(それらがイギリスで売られる事が無いよう厳重な監視をおこたらずに)。もしそうでなければ、アメリカでの売り出しは中止すべきだと思います。「アリス」についての情報、ありがとうございました。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871年4月19日

拜 啓 マクミラン様

目下のところ、もしあなたがオックスフォードに来て下さるのでなければ、私たちが十分な話し合いをするのは不可能だと思います。私は六月中ごろまでは、そちらに行く見込みが立ちません。しかし、もし先日

の私の提案が適正でないとお考えでしたら、何としてでも他の案を考えます。私は、英語版の『アリス』の場合を考えて計算しました。そして、総収入を 100 としています。

諸経費	60
出版社	10
作者	30
	<hr/>
	100

これが公正な取り決め (であると想定して)、諸経費が収入の 60 パーセントならば、あなたが全体の 10 パーセントを受け取るにせよ、純益の 4 分の 1 を受け取るにせよ問題はありません。しかし、廉価版の場合には、諸経費が収入にぐっと近づくので、初めの取り決めですと、私にとってどんどん不利になってゆき、もし諸経費が 90 パーセントになったとしますと

諸経費	90
出版社	10
作者	0
	<hr/>
	100

となり、これはユークリッド幾何学の定理に当てはめるまでもなく、“何と馬鹿げたことだ!” という結論に達すると言ってよいでしょう。

あなたがこのことをどうお考えか、ご見解をお知らせ下さい——もっとも私は黒 (青?) か白かで物ごとに決着をつけることが、より良くより明瞭な方法だとは決して考えておりません。敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871 年 4 月 26 日

拜 啓 マクミラン様

アメリカで廉価版を売り出す問題は、私が思っていたよりも多くの問題をかかえこむことになりそうです。それらを一度に解決してしまう方がいいと思います。

(1) フランス語版『アリス』は、一部につき、印刷その他に2シリング8ペンスかかりました。それはアメリカで、一部2シリング3ペンスで売られ、二十二部売れたと聞いています。その取り引きでは、あなたに手数料として4シリング10ペンスを、私に損失分を差し引いて9シリング2ペンスをもたらしました。

(2) 『ファンタズマゴリア』は一部につき2シリング6ペンスかかりました。アメリカでは一部1シリング10ペンスで、五十七部売れました。収益は10シリング5ペンスで、私の損失は1ポンド18シリングです。

(3) 『行列式』は、一部につき6シリングかかり、アメリカで一部2シリング6ペンスで七部売れ、あなたの利益は1シリング8ペンス、私の損失は1ポンド4シリング6ペンスです。

これが、私の三つの取り引きの明細です。あなたの総利益は16シリング11ペンスですが、私の損失は3ポンド11シリング8ペンスです。

すべての取り引きにわたるあなたの利益はごくわずかですが、それに比べると私の損失はかなりの額になります。このような方法で売り出すことをきっぱり止めることに、私は何のためらいもありません。そして、“私の本をアメリカやその他の地域で、イギリスよりも安い価格で（ある目的のために安く印刷したというのでなければ）売るのはお断わりします”と言うことにもためらいはありません。安く印刷することについては、いままでの総収入の10パーセントよりも別の取り決めを持つべきであることは明らかです。文学を金儲け主義に取り込もうとは思いませんが、そしてもっと利益をふやしたいと切望もしますが、損をしてまでも売るというのは全く別のことでそれを楽しむ余裕は私にはありません。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871年4月28日

拝 啓 マクミラン様

お手紙ありがとうございました。今までやってきたことに不足をみつけて言い立てている、という印象をあなたに与えないためにも（もう与

えてしまったかもしれませんが)、また私にはそんなつもりは微塵もないことを分かっていただくためにも、最善の策はお目にかかって話し合うことだと思います。私はあらゆる点でマクミラン社を十分信頼して事にあたってきました——その信頼は今も変わっておりません。

私が言いたかったのは、将来のために納得のゆく方法を決めることだったのです。私の本に関するあなたのご意見を熟慮いたしました。『行列式』はまったく売れないので話は別ですが) その上でなお、私の決意を変えるつもりはありません。私の結論は感情的すぎるかもしれませんが、商業主義的見地からみてさえ守られるべき事であると確信しています。

売り出してみないと利益のことはなんとも言えない、と言うあなたのご意見は、私たち双方にとってのもっともであると私も認めます。が、それさえはっきり証拠だてる方法がないと思わざるを得ません。

『ファンタズマゴリア』、『行列式』、『アリス』などのアメリカでの売り出しの問題は解決策が無いと思います——もしあなたが廉価版を印刷するおつもりが無いのでしたら。

『鏡の国』の廉価版に関しては、利益のことも含めて、あなたのご意向をうかがうまで待つことにします。

敬 具

C.L. ドジスン

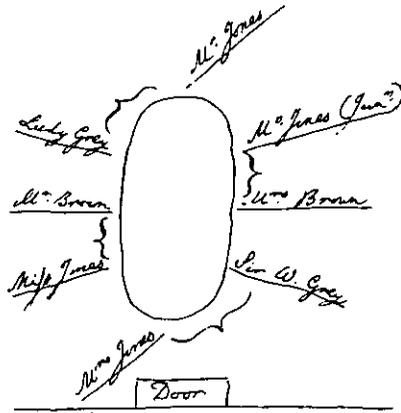
クライスト・チャーチ、オックスフォード

1871年5月19日

拝 啓 マクミラン様

先日、八人のささやかな夕食会を催しました。そこで私のある発明品を試したところ、高く評価されました。あなたにもそのことをお知らせする価値があると思います。

と言ってもそれは、客の名前と座席の配列をグループごとに書いた単純なテーブルカードなのですが、主催者はそれを客に渡すだけでよいのです(一度限りの自分の場合を例に書いて見ます)。



上の図をご覧になれば、私の意図はおわかりいただけると思います。
真ん中に（あるいは端に）献立を書き入れるゆとりもあります。

このプランの利点は、

(1) 主催者が、男性客にどの女性をエスコートして来たかを尋ねる煩わしさが無いこと。

(2) 客が食事室に現われたときの混乱を避けることが出来ます（皿のまわりに名前を置くやり方は混乱を増すが、このプランだと滞りが無い）。

(3) テーブルに着いた客全員が、他の客を知ることが出来ること——これは、ときに非常に望ましいことです。

(4) このカードを保存すれば、誰と誰が打ち解けていたか観察することで、別のパーティーを計画する時の参考になること。

私はそのために、まわりに装飾模様を入れ、8人用、10人用、12人用、14人用、16人用と名前を入れるための罫線を引いたカードの出版を思い付きました。きっと人気が出てよく売れるのではないかと思います。

儲けは別として、そういうものを作ってみようとお考えなら、どうぞお試し下さい。もしそのおつもりがない場合は、誰に手紙を書けば良いでしょう。ジェンナー アンド ニュースタブ⁷⁾でしょうか？ 書籍出版業組合に申請する必要はありますか？ そうすれば意匠権を登録出来るの

でしょうか？ もしそうならば直ちに申請して下さい (あなたが出版するにせよ、しないにせよ)。そうしないと権利のない誰かがこのアイディアを盗用するかもしれませんから。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1871年12月17日

親愛なるマクミラン様

とても重要なことをしたためなければなりません。その前にそれほど重要でないものから片付けることにします。

(『鏡の国』) 十部無事到着しました。これだけあれば、しばらく間に合います。

「アシニアム」誌一部がラルストン氏から送られて来ました。彼が書評を書いています。でも他の「グローブ」誌、「イグザミネー」誌、「イラストレイテッド ロンドン ニュース」誌など書評が載っているかもしれない定期刊行物を、書評のあるなしにかかわらず全部送っていただけると大変有難く思います。

送っていただいたうちの二十一冊(『鏡の国』)は、友人達によって私の手もとから持っていかれてしまいました。が、私は彼らに代金を正価で請求しておきましたので、来月の勘定でこの分の金額を私の付けにされても安心です。(私が払うべき金額で、あなたから借り入れの形になっている) 12 シリング 7 ペンス —— これは、あなたが受け取るべき利益の額です。

さて、この手紙の本題に入ります。

私は、絵の刷りが気になっていました。そして絵が真に芸術性を保てる最良の方法について：あなたが言われた、製本を急ぐために絵を白紙の間にはさんで押すやり方は、絵のむらの原因になると思わざるを得ません。すでに刷り上がったもののまさにその絵のむらが、テニエル氏を非常にいらだたせました。私自身も絵のいくつかはこのようなやり方のために「色艶」の効果が損なわれたと思っています。

「売り上げ」の結果がどうなろうと、私は芸術上の“大失敗”は今後認めないことを決心しました —— こんなに“大急ぎ”で書いているの

は、今朝あなたからのお手紙を見てびっくりしたからです。“出来るだけ「大急ぎで」もう6,000部を印刷したい”とのことですが、私の決心を申せば「これ以上急ぐ」べきではないということです：それから「刷ったものを白紙の下に入れて押しはけない」ということです。今後は刷ったものを“つまかさねて”自然に乾かすよう私から「特別にお願いいたします」。そうすればこの6,000部の売り出しは一月の末か、もっと後になるかもしれません。それで結構です。本の広告に出来上りの日付けを入れ、“絵の印刷に完璧な芸術的効果を与えるために時間がかかったため、増刷分は一月末まで配本出来ません”と知らせておけばいいのです。

あなたは、そうして大金をのがしてしまう私を、狂っているのではないかとお思いでしょう。また、そんなことをしたら何千ものお客を逃してしまうだろう、誰もそんなに長くは待ってくれないだろう、みんなクリスマスのために他の本を買ってしまうだろう、とおっしゃるでしょう。はっきり申し上げておきますが、そのような議論に私は全くかかわりたくありません。何部売れたかは私にとって問題ではありません。私が「特に」注意を払うのは、「現に」売られている本が一冊のこらず芸術的な一級品であるかどうか、ということだけです。

私が「あなたの」儲けを、私の分と同様に減らしてしまう、とおっしゃるのではないかと恐れています。しかし、しばらくはそのことは我慢していただきたいのです。それほど長期にわたって損をするようなことは無いと思います。

このように苦々しい事態を、すでに私は『不思議の国のアリス』で経験しています。芸術的にみて高い水準を保つためのあらゆる努力をしたにもかかわらず、突然やり直しの要求にあい（そんな要求は当然満たされるべきではないのに）私はついに混乱してしまい、大急ぎで3,000部を刷らせたのでした。その結果、本の芸術性に与えられた打撃が本当に取り戻せたかどうかは今も疑問に思っています。世間には、“鉛板の印刷に失敗したため素晴らしい本を一冊手に入れるには初めの方の数千部の中に一冊あるかどうかである”とひろまっています。私が儲けの二倍を犠牲にしても、出来上がった不幸な3,000部を地球上から抹殺出来るのならどんなにうれしいか、と思います。

もし新しい6,000部のシートがすでに“押されてしまった”のなら、
またもし絵が本当にそのことのために失敗したのだったら、それらの
シートは破棄し、もう一度刷り直さなければなりません。もちろん、そ
れに伴う損失はすべて私が償います。これはクレイ商会の落度ではあり
ませんから。

このような長い手紙を書いたのは、あなたに(増刷を)止めてほしい
理由をお知らせするためです。そして、この問題を私がいかに重大に感
じているかもお伝えしたかったのです。——それが儲けにどれほど大
きな影響を及ぼすかには私は無頓着である、ということも含めて。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1872年11月26日

拝 啓 マクミラン様

お手数をおかけしますが、この手紙が届き次第ただちにして頂きたい
ことがあります。筆耕を二人雇って、『不思議の国』と『鏡の国』の会
話の部分を「ひとつ残らず」書き出し、それぞれ誰のせりふかを書いて、
「白兎登場」とか「赤の女王退場」などのト書きも入れ、普通の芝居の
台本の形にして、もとの本と同じ題名をもった「二つの戯曲として著作
権登録をしていただきたい」のです。人から聞いた話ですが、本を戯曲
にして上演しようとする輩から著作権を守るには、こうするしか方法が
無いそうです。信頼しておまかせしますので、法律上の必要事項をすべ
て満たすよう処理してください。繰り返しますが、会話の部分はひとつ
残らず入れて下さい。とり急ぎ。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1872年11月28日

親展

拝 啓 マクミラン様

私のためにマクミラン社の印刷部に、コミッションを作って頂きたい

と思います。そしてこのことは「内密にして」おいて下さい。同封したものは、過日ロンドンで会った科学者たち（彼らは改革的で大変すんだ大学の、教えることは免除され研究のみを行えばよい）のために開かれた、オックスフォード大学とケンブリッジ大学の収入の“再分割”に関する会議の議事録を題材にした笑劇の原稿です。これには“パンと魚”のためのあまりに非科学的な感情が入りこんでいて、私にとっても（また他の人々にとっても）興味をそそられる問題です。笑劇には重大な問題の核心が含まれています。問題全体があまりに突飛なので、私は文学的な手法によらなければ全体を表現出来ないと思いました。そのため誰、彼、に対する個人攻撃から逃れることが出来ました。

もしそれをここで印刷すると、人々は作者を詮索するだろうと思いますので匿名のままにしておきたいのです。そしてそれをケンブリッジで印刷するように（きっと彼等も当今、ここと同じようにこういった問題についてのニュース記事はたくさんもっているでしょうから）そしてその支店で売るようお願いいたします。ケンブリッジ大学に関する問題はオックスフォード大学と同じくらいあるでしょうから、それをそこで印刷することはごく自然なことに見えますし、作者についての詮索も逃れることが出来るでしょう。

あなたは疑われてはらはらすることなく、通常の業務のやり方でオックスフォードの書店にその冊子を送り付けることは可能ですね？ それを広く知らせるために、一部ずつケンブリッジ大学のそれぞれの社交室に送るようお願いします。そして冊子がオックスフォードに送られてきた時、あなたはこちらでも同じようにするよう指示を与えて下さい。どうかそこに“ケンブリッジ”と入れて下さいますように。そうすればそこから来たことが分かりますから。

それは、四つ折り判で四ページくらいになると思います。読みやすい活字で良質の紙に印刷して、私に五十部送ってください。

“戯曲”のほうの仕事がうまくいきましたら、知らせてください。

『鏡の国』は何部売れましたか？ 今年のクリスマスに売れそうな見込みはありますか？

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ, オックスフォード
1873年2月26日

拝啓 クレイク様

私の妹, コリングウッド夫人, が『眠りの森の美女』の小さな版画を受け取ったと言ってきました。それが, あなたから私へのプレゼントか, 私から彼女へなのか, それともあなたが彼女に贈ったのかはつきり思い出せません。

いずれにしても額装は私の仕事です。その分あなたにどれだけお借りしていますか?

奥様にどうぞよろしく, そしてドロシーちゃんにも。(あなたは彼女にあの小さな本をあげましたか?)

敬具

C.L. ドジスン

追伸 『アリス』と『鏡の国』が, 今から七月までおおよそその位売れるか見積もりを立てて下さいませんか? そしてそれに見合った数だけ印刷して下さい, そうすれば六月には殆ど売り尽くせますね? 去年の六月期の決算で, 手もとに何千部も持ち合わせが残ったことは, 私にとって膨大にして不必要な損失の原因になりました。

ウエリントン スクエア2番地, ヘイスティングズ
1873年4月11日

拝啓 クレイク様

タフニッツからの申し出には従わないように, とのご忠告もとてもだと思います, が実際のところ私はこの問題そのものについてまだよく分からないのです。そこで次のことにお答え下さいませんか?

私が許可を与えるにせよ与えないにせよ, 彼は同じようにこの本を「印刷する」自由がある, というわけではありませんね? もしそうならば, 非常識とまでは言えないにせよ彼がなぜ許可を求めてくるのか分かりません。

許可がなくても彼は印刷し, 「海外で」販売できるとすれば, 私はその許可が「イギリス」に持ち込まれて影響を及ぼすことがあるかどうかを知りたいと思います。もし私が印刷の許可を与えたとして, それがイギリスに輸入され売られるのは合法的なことですか? こちらでの売り

上げの縮小につながることでですから、もちろん認めるつもりはありませんが。

しかし、いかなる情況のもとでも外国で出版したものをイギリスで売ることが出来ないとはあなたはおっしゃいましたが、海外で売り出すこと(正真正銘の電気版印刷のことを考えてですが)の私たちへの影響は一体どうなるのでしょうか。

タウフニッツ社の本は、たとえ彼個人の所有物であるとしても、合法的にイギリスに持ち込むことは出来ない、と私は考えています。また、それによって我々に及ぼす影響もごくわずかだと思えます。ですから我々が許可を与え、電気版を売ることだって理にかなっているわけです。このことについてさらにご相談したいと思います。お目にかかってお話しするほうが、推測にもとづく質問のやりとりよりも良い方法でしょうが、いつ私がそちらに行けるかわかりません。

敬 具

C.L. ドジソン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1874年10月17日

拝 啓 クレイク様

お手紙と計算書ありがとうございます。一度に6,000部も印刷することが賢明かどうかを長々と論じたくはありません。私たちは、ほかの点では合意しました(しかしそれは印刷上の問題でした)が、それが賢明かどうかは双方の承諾によってのみ変えられるべきものです。この原則が遵守されるかぎり、私は間違った計画によってもたらされた損失分を喜んで引き受けます。そこで、もう一度申し上げますが、「私は一度に3,000部以上刷ることには同意しかねる」という私の決心を、今後は必ず守っていただくようお願いします。

あなたは、一度に6,000部刷るのは“安あがり”だとおっしゃいますが——今度の場合(全部売れたときに)ずっと高あがりであることが判明する筈です。6,000部一度に刷ることによって、私は一年に約300ポンドの利益を失い——そのうえ20ポンドの払込み請求を受けます。6,000部一度に刷るには、321ポンド1シリング10ペンスかかることが分かりました。3,000部の費用は、1872年ですと169ポンド9ペンス、

次の3,000部で159ポンド6ペンスでした——ところが、6,000部を二度印刷すると、328ポンド1シリング3ペンスと追加料金が7ポンドかかります——つまりあなたが6,000部刷ることで、私は追加料金の7ポンドはまぬがれますが、払込み請求の20ポンドは逃れられませんから、差引き13ポンドの損失をこうむることになります。

あなたはアメリカで1,000部印刷するための費用は、私が支払わなくてもよいとおっしゃいましたが、それは間違っていることが解りました。あなたの計算はこうでした：

“アメリカ版—

紙代および印刷代

1,000部……48ポンド5シリング3ペンス

しかし、あなたが損をなさないようにしたいと思いますのでそのままにしておきます。6年間は増刷の必要はないだろうと思います。

敬 具

C.L. ドジスン

追伸 『ファンタズマゴリア』の見本刷り（注：挿絵入りの）をまだ手にしていません。『アリス』と同じサイズにする（ただし、活字は必ずしも同じでなくても）ということ——そして挿絵は別に刷るべきであることで意見が一致していることはご存じだと思います。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1874年12月24日

（ギルフォードのチェスナッツ邸に行きます）

拜 啓 マクミラン様

“エルシー ストライヴリン”が誰なのかは秘密になっているのかどうか、それともあなたが私の質問をたまたま見落とされたのか、私には解りません。どうやら、サンボーンは「まだ」『ファンタズマゴリア』の絵に取りかかかっていないようです——一ヵ月ほど前にはやっていると言っていたのですが。でも彼をせきたてる理由もありません。イースターに出版するのがいいと思われませんか？ それとも夏のほうがいいでしょうか？

ところで、おたくのオリーブはいくつになりましたか？ 子供はびっくりするほど早く大きくなります。折を見て出かけ、ゆっくり過ごして旧交を温めたいと思っています。パントマイムや観劇のために数日間そちらに滞在する予定ですから。

敬 具

C.L. ドジスン

マクミラン社の絵入りカタログに、なぜ『アリス』42,000部発行、『鏡の国』33,000部発行と書いてあるのですか？ 私はもうそれをはるかに越えているものと思っていました。

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1875年3月9日

拝 啓 マクミラン様

あなたに——私たちにと言ったほうがいいと思いますが——良い知らせがあります。テニエル氏がパズルなどの本（『アリスのパズルブック』という題名にしようと考えています）の口絵を描くことを承諾してくれました。すべての原稿が整えばきっといいものになると思います。原稿はすでに出来ており今はゲラ刷りの最中ですので、暇をみて校正や割り付けをしています。最初のほうはもう活字に組んでいます。先日クレイ氏と『ファンタズマゴリア』のページのように“古い字体の活字で”組んでみてはどうかと話しあいました。まだそれを見てはいませんが、その方法はこのパズルブックにうってつけだと思います。ページの大きさは『アリス』と同じサイズにし、活字は小さく、行間もせまくして、一ページに26行か27行にしようと考えています。

「カースル クローケー」ゲームの規則集を同封します。ご覧になって一番良いと思われる形でページに組んでみて下さい。

この本には、図表がいくつかありますが絵はありません——そして短い箇条書きがたくさんあるので、それらを何かで分ける必要があります。時にはページの終わりまで続きますが、小さな飾り模様（か何か）を使うと美しい効果が出せると思いますが、いかがでしょうか？ それともそういうものは本の品位を損なってしまうのでしょうか？ 敬 具

C.L. ドジスン



クライスト・チャーチ, オックスフォード
1875年3月18日

拝啓 マクミラン様

『ファンタズマゴリア』の印刷にあたって、急遽解決したい二、三の質問をします。

第一に、本のサイズに関して。サンボーン氏の意見を同封しますので、これをどうお考えかお知らせ下さい：私の考えでは、あまり正方形に近い形にすると、子供の絵本のようにになってしまうのを恐れています。縦を『アリス』と同じにして横を『アリス』より少し広くする、という折衷案で解決出来ないでしょうか。

第二に、挿絵の数に関して。ここにサンボーン氏が示した挿絵のリストがあります。

ファンタズマゴリア	— 30
海の哀歌	————— 4
やさ男	————— 1
*ハイアワサ	————— 7
*ラング クーティン	—— 7
メランコレッタ	————— 3
詩人の気まぐれ	————— 2
*ベアトリーチェ	————— 2
音楽のための断章	—— 1
炎のなかの顔	————— 3

60

*印は、「彼」が特に入りたいと望んでいるものです。

最後の三つに異議を唱えてくださることを期待しています。“詩の半分は真面目なものにして、あとの半分は滑稽なものにする”か、“すべて滑稽な詩にする”か、私自身まだ決めかねています。

“ラング クーティン”と“クローケーの規則集”の見本刷りをご覧

になった感想をまだうかがっておりません。

私は、ページの大きさからみてその詩は長すぎる、と思い始めています。“規則集”のほうは良いと思います。とり急ぎ。 敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ、オックスフォード

1875年3月19日

(4月8日まではギルフォード、チェスナッツ邸宛にして下さい。)

拝 啓 マクミラン様

あなたのご判断は明快で説得力があります。本のサイズは『アリス』と同じにして、滑稽詩だけにしましょう。“活字”の問題はもう一度考えてみます。

ところで、このパズルの本のタイトルについて助言をいただきたいのです。というのもタイトルを決めることは本の売れ行きと密接な関係があるからです。いくつか候補を上げてみます。

X ALICE'S PUZZLE-BOOK
ALICE'S BOOK OF PUZZLES
ALICE'S BOOK OF
ODDS AND ENDS.
THE WONDERLAND
PUZZLE-BOOK.
PUZZLES FROM WONDERLAND
THE LOOKING-GLASS BOOK.
X JABBERWOCKY
AND OTHER MYSTERIES,
BEING THE BOOK THAT
ALICE FOUND IN HER TRIP
THROUGH THE LOOKING-GLASS

もし後者あるいはそれを少し変えたものにする場合には、“ジャバウオッキー”の詩で始めるのが良いと思います。そして（もしお許しいただけるなら）マクミラン社発行の「マガジン」誌から、その詩の三つの

ラテン語訳をつけ加えたいと思います。

ご一家の皆さんが、一種の委員会に変貌するようなことでもあったら、どうか皆さんの意見をお知らせ下さい。一致した意見ならまとめて、そうでなかったら別々にお知らせ下さい。

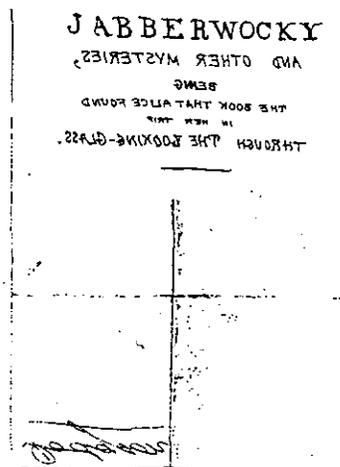
短い詩を他と区別するために間に入れる飾り模様（か何かそういったもの）についてのあなたのご意見をまだ伺っていないのですが、よろしくお願いします。

敬 具

C.L. ドジスン



後者のためのもう一つの案です。



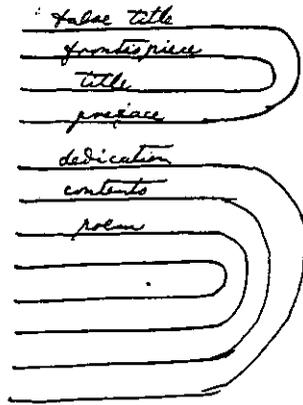
クライスト・チャーチ、オックスフォード

1875年11月6日

拝 啓 マクミラン様

詩の残り全部と献辞と目次と海図を送ります。序文はまだ書いていませんが、一ページほどになると思います。そして小扉とつづくようにして、口絵とタイトルページを間におり込み、さらに献辞と目次は別々に綴じられることがないように、第一ページにくるようにすると良いと思います。しかしこれらは、あなたのご判断におまかせします。

私の考えた配列では、次のようになります。



これですと、献辞から数えて本文は二十一枚になります。偶数枚になるようにもう一枚足して、前のページの下のところに入れて、一番最後のページを『アリス』の広告に利用することも出来ます。(読者が絶対に先へ進んでページをめくるよう指示するのです——“どうぞめくって下さい”とか、“めくること”とか、“次へ”などを入れて)。

校正刷りはいつものように二部ではなく、三部送って下さるようお願いいたします。

もし献詩の書きだしのプリリアント活字が頭でっかちで不安定とお考えでしたら、少し大きめの活字でも結構です。でも私は小さいほうが良いと思っていますが。

今年売り出される本に軽く張り付けるための、短いクリスマス レターを作りたいと思います。その見出しをカラーにするのは、時間的に可能ですか？ ホリデー氏がひいらぎの小枝を一つデザインしてくれました。

ホリデー氏は青いクロスカバーではどうか、あなたと相談すると言っています。私もそれに賛成です。

敬 具

C.L. ドジスン

クライスト・チャーチ, オックスフォード

1875 年 12 月 21 日

拝 啓 マクミラン様

一月の早い時期に『スナーク』を、すべての点で最終の形に仕上げたいと望んでいます。そうすれば、あなたが電気版で印刷するまえに、字句の校正にじっくり時間をかけることが出来ると思います。そのために今、挿絵の問題も解決出来ると大変ありがたいのです。挿絵を本文と別に印刷するというあなたの提案は、考えれば考えるほど私には好ましく思えません。私は、本文が絵の裏側にもあることを望みます。我慢出来る方法として、二つの案が考えられます——一つは、挿絵を色の違う紙に印刷して本文とはっきり区別出来るように仕上げることです——もう一つは『アリス』でやったように、本文にそって挿絵を入れ、それぞれの挿絵の裏側にも本文を入れることです。

後者は、もしあなたがどうしても反対なさりたいのでなければ、概ね良いのではないかと思います。もしそれで良いとお考えでしたらお知らせ下さい。すぐに一枚目のシートの配列に取りかかりますので。全部で約 60 ページほどになる見込みです。

クリスマスのための本のカタログ、有難うございました。 敬 具

C.L. ドジソン

【注】

- 1) これは、北星論集(文)第30号(1993)および第32号(1995)に続くもので、C.L. ドジソン(L. キャロル)が著作出版のため、マクミラン社の社主 Alexander Macmillan にあてた手紙の翻訳である(© The Trustees of the Estate of Rev. C.L. Dodgson)。なお翻訳にあたって、C.L. Dodgson の遺産管理者の Philip Dodgson Jaques 氏の許可を得ている。
- 2) 文中の作品の略記は原文に従った。
- 3) 印刷業者の Richard Clay。
- 4) 1869 年一月に出版された *Phantasmagoria*。
- 5) マクミラン社の George Lillie Craik。
- 6) *Poems Written for a Child* (1868) のことで、作者は“By Two Friends”となっている。

- 7) ロンドンの文具商。
- 8) 詩集 *Hunting of the Snark* (1876 年刊) のための詩。

TRANSLATIONS

Translations of William Stafford's 19 Poems

Yorifumi YAGUCHI

Walter de la Mare: *Peacock Pie*

Tadao NOGUCHI

The Letters of C. L. Dodgson
to the House of Macmillan
(3)

Kumiko TAIRA